

上：浦安の舞いの様子（平成 14 年）〔写真提供：石徹白清住氏〕

下：皇紀 2600 年記念として浦安の舞いが初めて奉納されたときの様子（昭和 15 年）

〔写真提供：石徹白清住氏〕

白山信仰は、養老元年(718)に、越の国・麻生津あそうづ（現在の福井市）の僧・泰澄たいちょうが白山を開いたことに始まるとされます。

泰澄大師による白山開びやくを記念して、毎年 7 月 18 日に白山中居神社で行なわれる祭礼が「創業祭」です。

写真は、創業祭で奉納される「浦安うらやすの舞」。これは、昭和 15 年（1940）に皇紀 2600 年記念として奉納されたことに始まる舞です。

なお、5 月に行なわれる白山中居神社の春の例大祭では、「五段神楽」という舞が社殿の中で奉納されるのに対し、この浦安の舞は「御岩屋」の前で奉納されます。